

# シャロームタイムズ

2017年8月13日（日）発行

宗教法人

野毛山キリストの教会

〒220-0032 横浜市西区老松町30番地

平和聖日

脅威にさらされていきます。また、日本国内でも残虐な信じられないような事件が起こつてあります。キリストによる平和を祈らざるにはいられません。

10

三才圖會

牧師 奈良 昌人

マタイによる福音書5章9節

は神さままで私たち人間に始めから備わっているのではなく、源野毛山キリストの教会の平和聖日を迎えた。「愛も恵みも平和もありイエスさまです。」

「剣を打ち直して鋤とし、鎌を槍を打ち直して鎌とする」（イザヤ2：4）：8月15日、72回目の終戦記念日を迎える。あくまで戦争において日本の国では戦車や戦艦、戦闘機を作るため寺の鐘や教会の鐘も例外なく国に提供しなければなりません。おとぎ話通り、「鎌を劍に」、「鎌を槍に」打ち直し、戦う道具を作つたのです。しかし終戦を迎え、新しい憲法には二度と戦争をしないという約束がなされたのに出版された本の挿絵は戦車や戦闘機をるつぼで溶かして、列車や客船などを造る絵であり、まさに「剣を鋤に、槍を鎌に」というみ言葉が示す通りのことが行われて今日があります。

「平和を実現する（口語訳：つくり出す）人々は、幸いである、その人たちは神の子と呼ばれる」（マタイ5：9）：王イエスは平和をいたずらによく教えられず、平和の実現、平和での暮らし出すことを求められました。ただ平和を待つてばかりでなく、具体的な行動へと踏み出していくのです。しかし望むのではなく、具体的な一つの方法です。しかし望むのではなく、そんな大きなことは私たち一人ひとりがすることは不可能です。ノートルダム清心学園理事長だった渡辺和子先生の「面倒だから、しょよう」（幻冬舎）という本の中に「平和を口先だけで唱えるのではなく、平和を身边に造り出す人間の文明は発展していくますが、その発展は例えば原子力のように、使い方によっては人を殺す武器になり、人生を生きる道にもなります。人生を生き支えるものを作り出していくことこれが平和を作り出すことの具体的な一つの方法です。しかし望むのではなく、そんな大きなことは私たち一人ひとりがすることは不可能です。」といふことがあります。人を生かし支えるものを作り出していくことこれが平和を作り出すことの具体的な一つの方法です。しかし望むのではなく、そんな大きなことは私たち一人ひとりがすることは不可能です。」といふことがあります。人を生かし支えるものを作り出していくことこれが平和を作り出すことの具体的な一つの方法です。しかし望むのではなく、そんな大きなことはできません。私にできることが限られています。」と答えたのです。このことを渡辺和子先生は「平和について議論するのも大切です。国際間の紛争をやめさせることも大切です。しかし、私たち一人ひとりが日常生活の中でできること

戦争と私

大谷  
正義



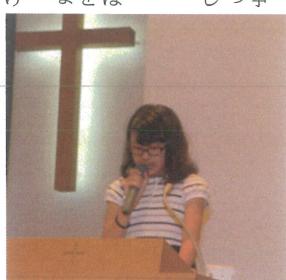
私の生まれた1926年当時、大正から昭和へと時代が流れ、少くとも少年俱楽部では「われらも戦ひたい」という熱い想いが生まれました。一方で、私は愛国・軍國少年が横行していく中で、私の家族は、若い日に宣教師から受洗された母子、供たち4人は青山学院から分れた本多記念青山教会と日曜学校に通つた。戦争が近づくと、一方では、非常事態に備えた生活訓練として、男児は掃除・洗濯・炊事の練習が行われ、他方では日本を代表する社会事業家長老から「酒とタバコはやるな!」など精神教育を受けました。そうした中で私は受洗し、牧師さんは赤紙をもらつて軍隊に入り、時を経て戦死の報がきました。戦争末期に強制収容となり銀

実現できないでしょ。家族の中に笑顔、いたわり合い、赦し合いがあるでしょか。他人に迷惑をかけないことはもちろん、進んで困つてゐる人、淋しい人に手を差し伸べて、相手を喜ばせ努力をしているでしょか。平和を考える会議が必要でしょが、実行はされるでしょか。平和を願う祈りを唱えることも大切ですが、より大切なのは、実行なのです。「信仰は持つてゐるものではなく、生きるもの」であります。主の十字架の痛みを我が身に受けることによって、平和を生み出すことが求められてます。」と説明してます。そして主イエスは、「そのように実行する人は「神の子」と呼ばれる」と言わされました。使徒パウロはコリントの信徒への手紙二でこう書いています。「つまり、神はキリストによつて世を御自分と和解させ、人々の罪の責任を問うことなく、和解の言葉をわたしたちにゆだねられたのです。」(コリント5:19)：パウロは、私たちは「和解の言葉」である主イエスを伝える手紙であり、手紙の差出人は主イエスであると言つています。手紙の内容は主イエスの福音であり、信じてゐる私たちは確かに印が、聖靈なる神によつて押されていきます。手紙である私たちが、この世に出て行き、それぞれの場所で分けた人に届けられるのです。しかししながら私たちには主イエスのことをうまく語ることができません。でも私たちが言葉を駆使して主イエスの平和を伝えられるではなく、共におられる神さまが力を貸してくださいますから大丈夫です。エフエソの信徒への手紙2章14節に「実際に、キリストはわたしたちの平和であります。」とあります。主イエスが平和であり、その主イエスのことを知らせる時私たちは存在は、主イエスを伝える手紙があるのであり、私たちが平和の使者なのです。神さまが私たちと共におり、平和のために導いてください。ですから、私たちは手紙として、使者として隣人に出会い、その人々との間に主の平和があるように関わつていくことが大事なことなのです。感謝してこの私たちのすべてを神さまにお委ねし、平和を実現できるように祈りつつ神の子と呼ばれる者としての歩みをなしてまいりましょう。

戦争をなくすだけでは

「子どもの教会」ジュニア（中学1年生）

貴邑 知怜



「平和」と辞書で引くと「戦争がなくて世の中がよくおさまっていること」と書いてあります。た。「平和な世の中にいるには?」と聞かれると「戦争をなくす」と答える人が多いと思います。では世界中から戦争をなくせば平和になるでしょうか? 戦争をしていない日本は平和なのでしょうか?

中学生の私は戦争をなくすだけではなく世界は作れないのではないかと思います。中学校で行われた平和講演会が、「平和な世界を作るには戦争をなくすだけでは作れない」と思うきっかけとなりました。講演会で人権についての話を聞きました。その中で、印象に残つたことをお話しします。皆さんは世界人権宣言を知っていますか? 世界人権宣言とは自分らしくふみにじられない生きる権利のことです。その中にこのようなことが書いてあります。(1)殺されない(2)暴力・虐待をされない。自由を奪われない。(3)自由に意見を持ち、意見を述べ、活動し、自分のことは自分で自由に選択できる。(4)差別されない。(5)政府の意見決定に参加できる。(6)健康・住居・食糧・労働条件等が保障されているなどあります。今の日本はこの人権宣言のことが守られているのでしょうか? 役に立たないからなどと言つて罪のない人が殺されたり、自分を守つてくれるはずの家族から暴力や虐待を受けている子どももいます。また、障害があるからなどと言つて差別されている人もいます。私はこのようなことがある日本は決して平和だと言えないと思います。このような人たちを少しでも助け、世の中を平和にするため、私たち一人ひとりが自分の心のものさしを持つて何が間違つていてるかを理解し、「声を上げていくことが大切なのではないか」と思いました。中学生である私は、ひとりひとりが間違えに気づき、声を上げていくことが大切なのではありません。



座教会に合併され消滅しました。戦争は1945年夏、敗戦して終結し、戦後へ移りました。しばらく銀座教会に母と共に通いましたが、やがて母の他界と共に私は野毛山教会に移りましたが、これは金児牧師とのブームでの出会いによるものです。金児夫人にもご厄介になりました。忘れない導きにより、そして今日現在があります。

大谷兄は戦争で亡くなつた先輩たちのためにも戦争を伝えていく責任があると何度も力強くおっしゃっていました。

## 聖書の言葉

平和を実現する人たちは  
幸いである。  
その人たちは  
神の子と呼ばれる。  
マタイによる福音書5章9節

# シャロームタイムズ

2017年8月13日（日）発行

宗教法人

野毛山キリストの教会

〒220-0032 横浜市西区老松町30番地

## 絵本 ヒロシマの少年 じろうちゃん 作・やまだみどり 絵・みなみなみ

コカリナ奏者 黒坂黒太郎さんを通じてこの絵本と出会ったのは昨年のことです。来年の「平和を語る会」でぜひ紹介したいと思っておりました。大谷正義兄のお話とじろうちゃんが被りました。戦後72年となり、戦争を体験した方が少なくなっています。可能な限りお話を伺い、過去の過ちを繰り返さないように、祈り続けていきたいと思います。みなみなみさんの絵に酒井大志兄の朗読、最後にBGMで流れた被爆樹で作られたコカリナで演奏された黒坂黒太郎さんの「空」は心を打つものでした。じろうちゃんは作者のお兄さんだそうです。作者は私たちにできることは何かを問いかけてくれます。（奈良亜）

じろうちゃんは、明るく元気な子でした。妹たちが歌をうたっているとやってきてその歌にあわせて踊りだすような少しお調子者のところもありました。

1945年8月6日、その日、中学1年生のじろうちゃんは、学校のみんなと広島市内の今原爆ドームが見えるところで建物をとりこわす作業をしていました。その頃、日本は戦争をしていて、空襲がだんだんひどくなっていました。家をこわして、爆弾が落とされたとき火がもえ広がらないようにするためにあき地をつくっていたのです。

おおくのおとなの男の人は戦争を行っていたので、中学生や女学生がそのきつい作業をしていました。その日も出席の点呼が終わり、みんなで作業に取りかかったときでした。

午前8時15分  
強い光と同時に何かが上空で炸裂したような衝撃がはしり、じろうちゃんや友人たちは気をうしなってしまいました。



しばらくして、気がついたときにはじろうちゃんは、くずれた建物の下敷きになっていました。すぐそこまで炎がせまっていましたが、身動きができませんでした。



じろちゃんたちは、みんなではげましあいながら、そばをにげまどっている人々に向かって「たすけてー」と声のかぎりにさけびました。

しかし、その声はとどきませんでした。

必死でもがいていると、じろうちゃんのからだは、重くのしかかった大きな柱から、とつぜん抜け出したのです。

そのときです。炎は怪獣のようにのしあがっておしゃせ、今までそばにいた友だちをつぎつぎと飲みこんでしまいました。

ひとりすかたじろちゃんは、一日中歩いて、やっとの思いでとおくにある家にたどりつけました。

顔は煤(すす)にまみれたように黒く、風船のようにふくれあがっていたので、家族にもなかなか見分けがつきませんでした。

じろちゃんは、家族や見舞いにきた近所の人たちに自分のみてきた地獄のようできごとを三日三晩話し続け その後、たおれこみ、そのまま眠り続けていました。



3か月後、じろちゃんは意識をとりもどしました。しかし、明るい調子者のじろちゃんではありませんでした。この日から8月6日にみた地獄のようできごとについてはいっさい口をとざしていました。あの日、いっしょにいた友だちは焼け死んでしまい、自分だけが生きのこってしまったことが心の傷となってしまったのです。



2011年3月11日  
東日本大震災がおき、福島では原子力発電所の事故がおきました。ヒロシマ、ナガサキ、ピキニと放射線の被害を受けた日本が放射線による被害を起こしてしまったのです。

じろちゃんは「悲しい、くやしい」と胸がつまる思いになりました。あのヒロシマでみた地獄のできごとを65年間語らないできごとを悔やみました。原爆がどんなにむごいものであるかを体験した者が、おおくの人に伝えなければならなかつたのだと。それは生き残った自分の使命なのだと、そしてそれがあの日なくなった友だちへの供養になるのだと。



80歳になったじろちゃんは、とざしつづけてきた重い口をひらき、あの日、8月6日にヒロシマで起きたことを人々に語り伝えるようになりました。

そしてその姿は、亡くなった友への祈りのようでした。

## 広島（ヒロシマ）

1945年（昭和20年）8月6日午前8時15分。原子爆弾リトルボーイは、第33代アメリカ合衆国大統領ハリー・S・トルーマンの原子爆弾投下の大統領命令を受けたB-29（エノラ・ゲイ）によって投下されました。

この1年に亡くなった方 5530人  
計308725人

## 長崎（ナガサキ）

広島の3日後の1945年8月9日午前11時2分、B-29（ボックスカー）が長崎市に原子爆弾ファットマンを投下しました。

この1年に亡くなった方 3351人  
計175647人

## 子ども代表「平和への誓い」

原子爆弾が投下される前の広島には、美しい自然がありました。

大好きな人の優しい笑顔、温もりがありました。一緒に創るはずだった未来がありました。

広島には、当たり前の日常があったのです。

昭和20年（1945年）、8月6日午前8時15分、広島の街は焼け野原となりました。

広島の町を失ったのです。

多くの命、多くの夢を、失ったのです。

当時、小学生だった語り部の方は、「亡くなった母と姉を見ても涙が出なかった」と語ります。感情までも奪われた人がいたのです。

大切なものを奪われ、心中に深い傷を負った広島の人々。しかし今、広島は、人々の笑顔が自然にあふれる街になりました。草や木であふれ、緑いっぱいの街になりました。

平和都市として、世界中の人に感心を持たれる街となりました。

あのまま人々が諦めてしまっていたら、復興への強い思いや願いを捨てていたら、苦しい中、必死で生きてきた人々がいなければ、今の広島はありません。平和を考える場所、広島。

平和を誓う場所、広島。

未来を考えるスタートの場所、広島。

未来の人に、戦争の体験は不要です。

しかし、戦争の事実を正しく学ぶことは必要です。一人ひとりの命の重みを知ること、互いを認めあうこと、まっすぐ世界の人々に届く言葉で、あきらめず、粘り強く伝えていきます。

広島の子供の私たちが勇気を出し、心と心をつなぐ架け橋を築いていきます。

平成29年（2017年）8月6日

## 子ども代表

広島市立大芝小学校6年 竹舛直柔

広島市立中筋小学校6年 福永希実



## 平和の握手

主の平和がありますように